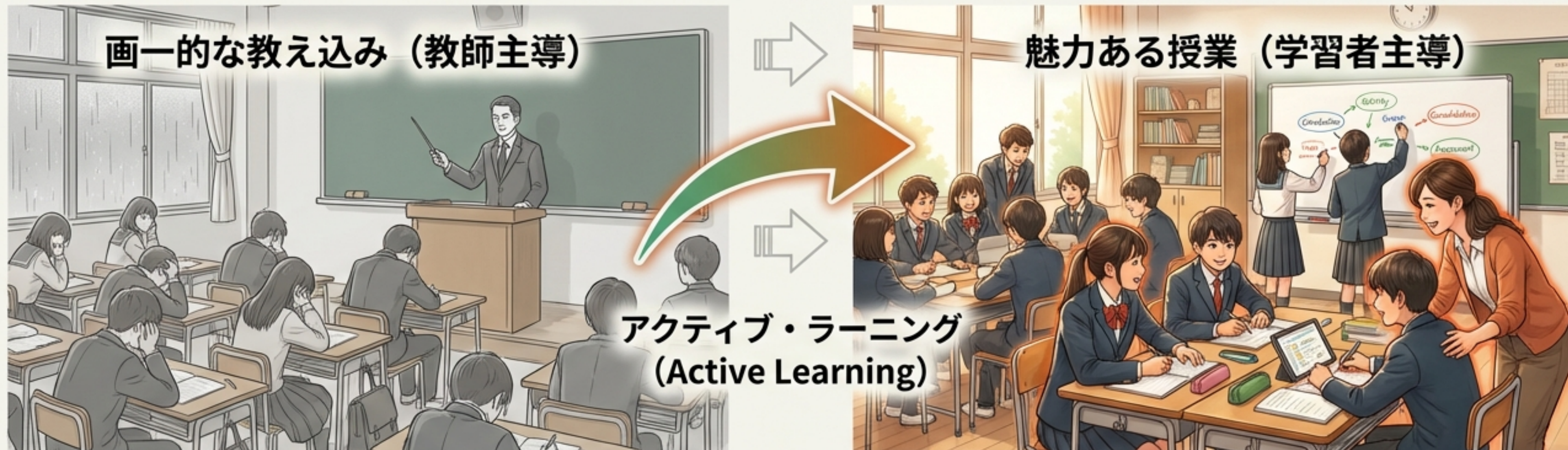


魅力ある授業をつくる ：理論と実践の統合

ガニエの9教授事象と 教師の指導力

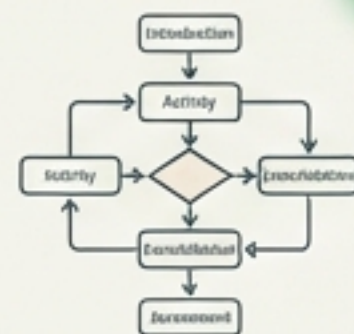
「魅力ある授業」の定義と3つの柱



定義：子供が教材に引き付けられ、主体的・協働的に追求する授業

1. 児童生徒理解力

興味・つまずきの把握



2. 授業力

授業の構成・展開
※本日のテーマ

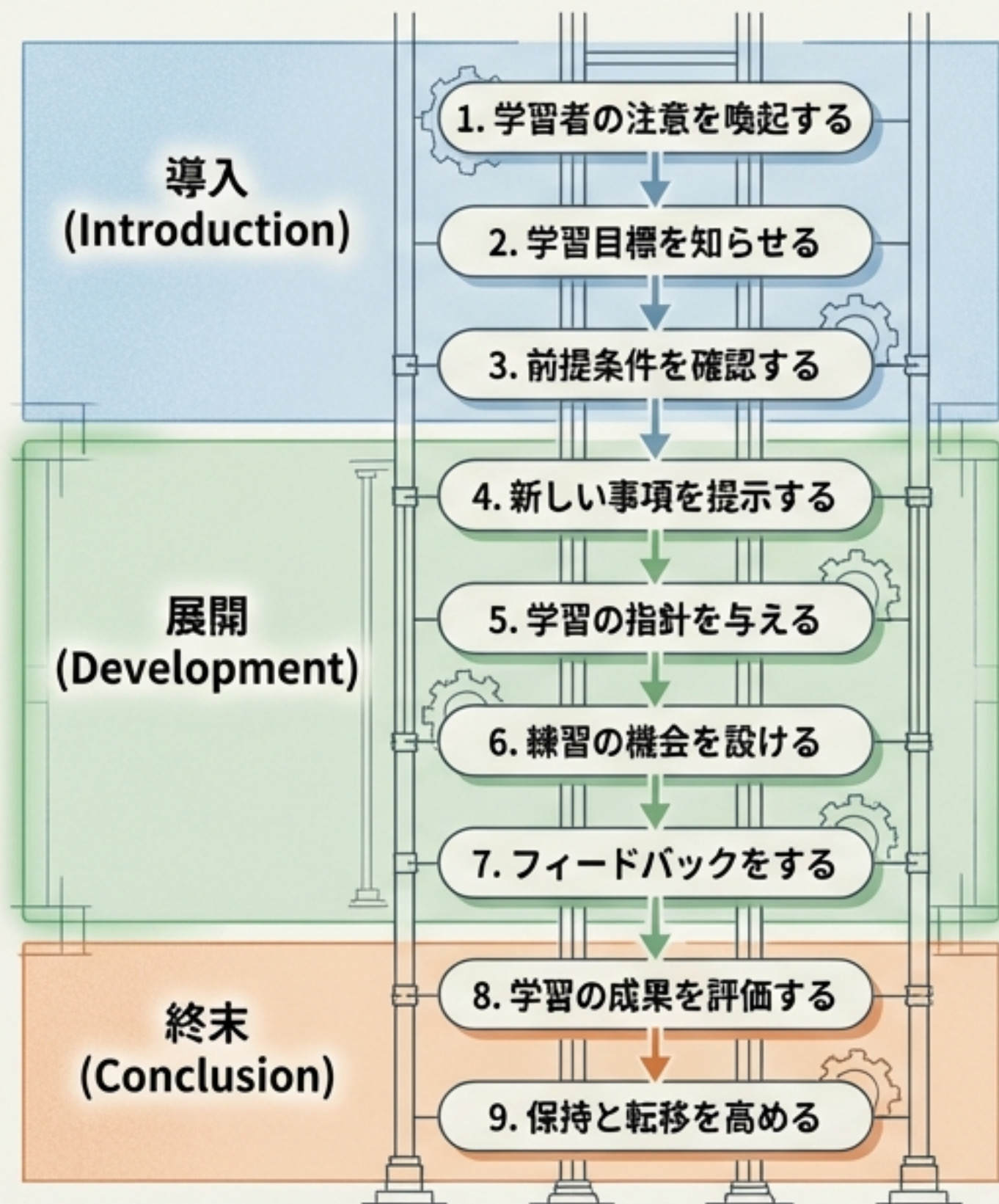


3. 学級経営力

人間関係の構築



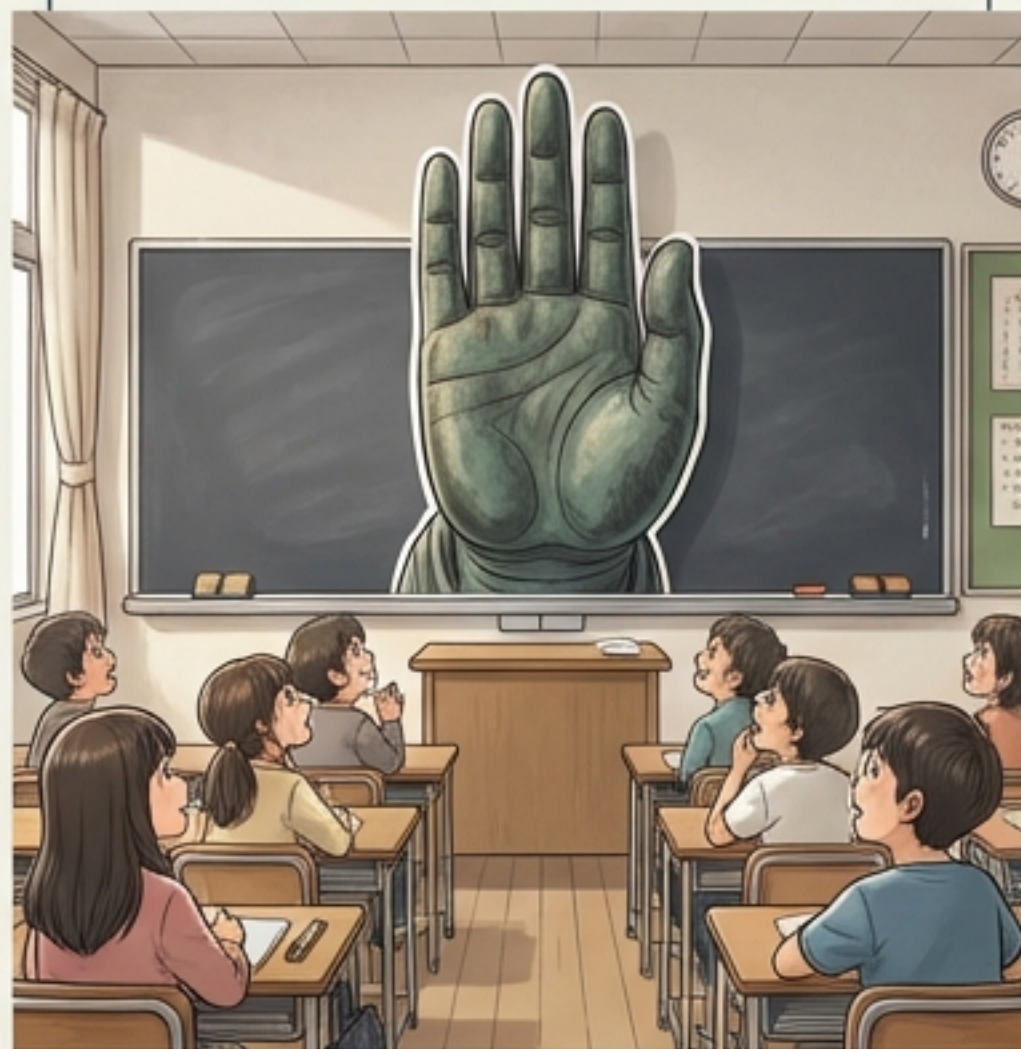
授業構成の地図：ガニエの9教授事象



学習のプロセスを科学的に
分解したロードマップ

事例研究：導入の工夫（Introduction Strategy）

単元：聖武天皇と奈良の大仏（小6 社会）



1. 注意喚起：

奈良の大仏の実物大の手を提示



2. 目標通知：

教師の課題提示ではなく、
子供の疑問を引き出す

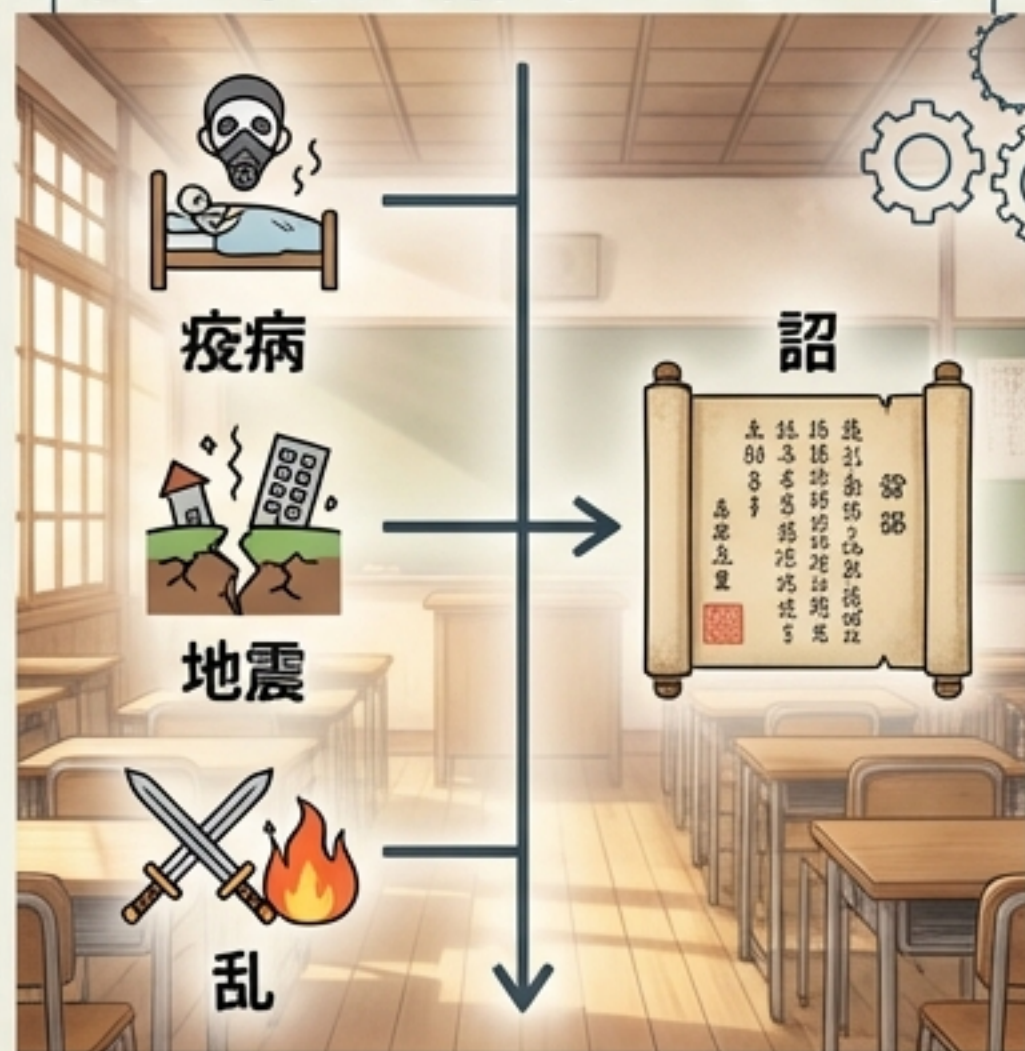


3. 前提条件：

既習知識（災害・不安）
を想起させる

事例研究：展開の工夫（Development Strategy）

4. 新事項提示：疫病・地震・乱の年表と詔（みことのり）



歴史的な事象と史料を提示し、関連性を問う。

5. 指針を与える： 机間指導で個別に助言



生徒一人ひとりの思考の進度に合わせて、適切なヒントや問いかけを行う。

6. 練習の機会 & 7. フィードバック



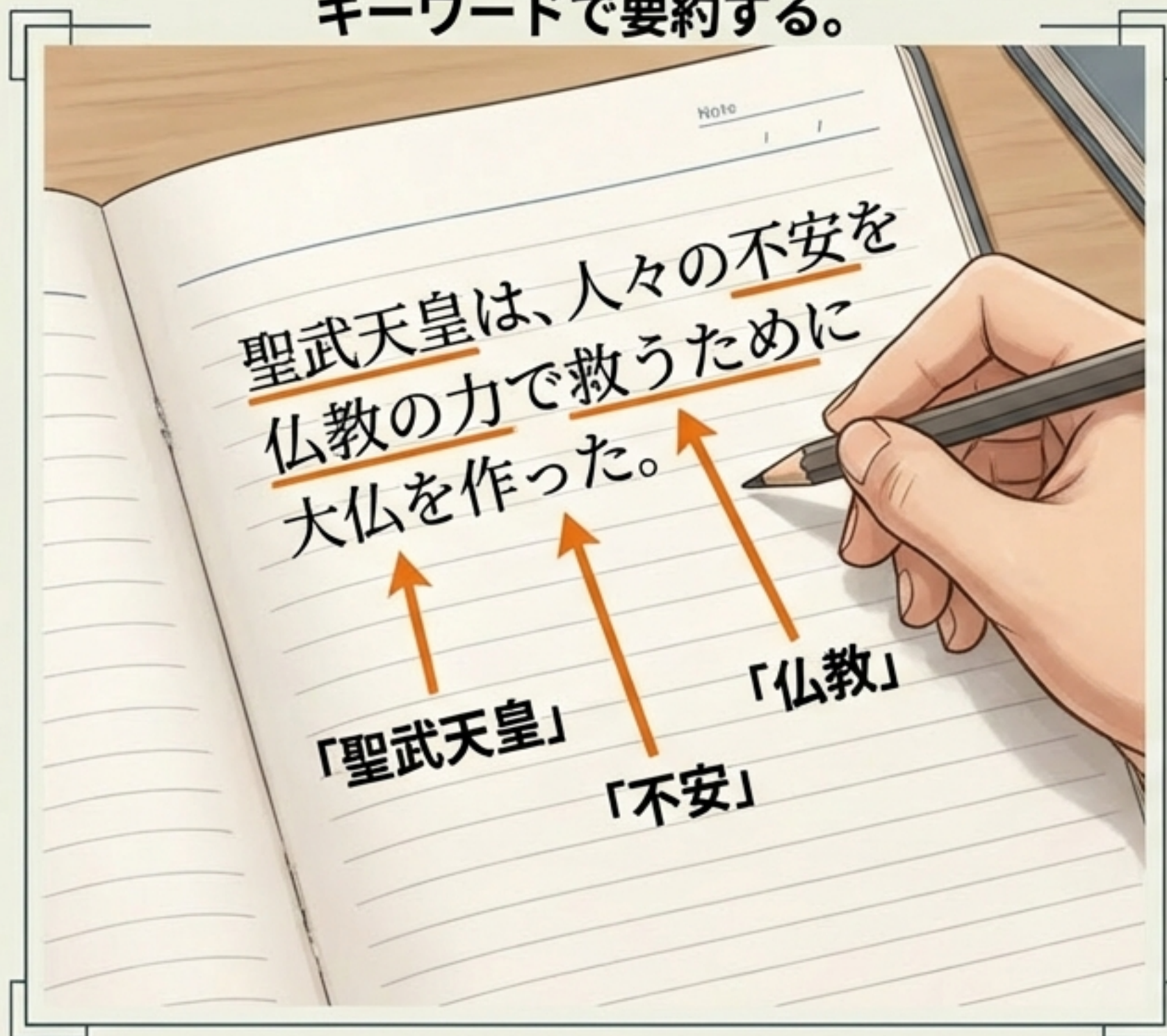
仲間との対話や発表を通して考えを深め、教師や他者からのフィードバックで理解を確実にする。



「わかった！」の瞬間：社会の不安を仏教の力で鎮めようとした聖武天皇の願いに気づく

事例研究：終末の工夫（Conclusion Strategy）

8. 評価：板書の書き写しではなく、
キーワードで要約する。



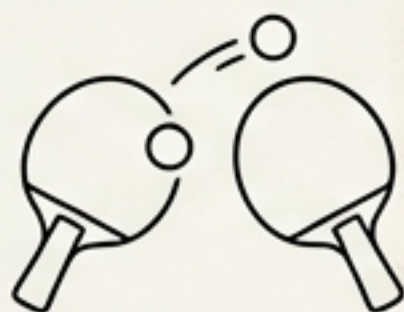
9. 保持と転移：自分事として捉える。



教師のスキル：発問・指示・説明

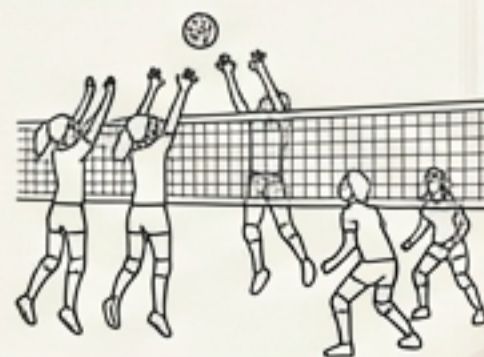
発問 (Questioning)

閉じた発問 (Closed)



知識の確認。一問一答。
(e.g., Is a tomato a fruit?)

開いた発問 (Open)



思考の深化。生徒間でつなぐ。
(e.g., What is the difference?)

指示 (Instructions)



明確性が命。5W1Hを意識する。
(どこに書く？ いつまでに？ どうやって？)

説明 (Explanation)

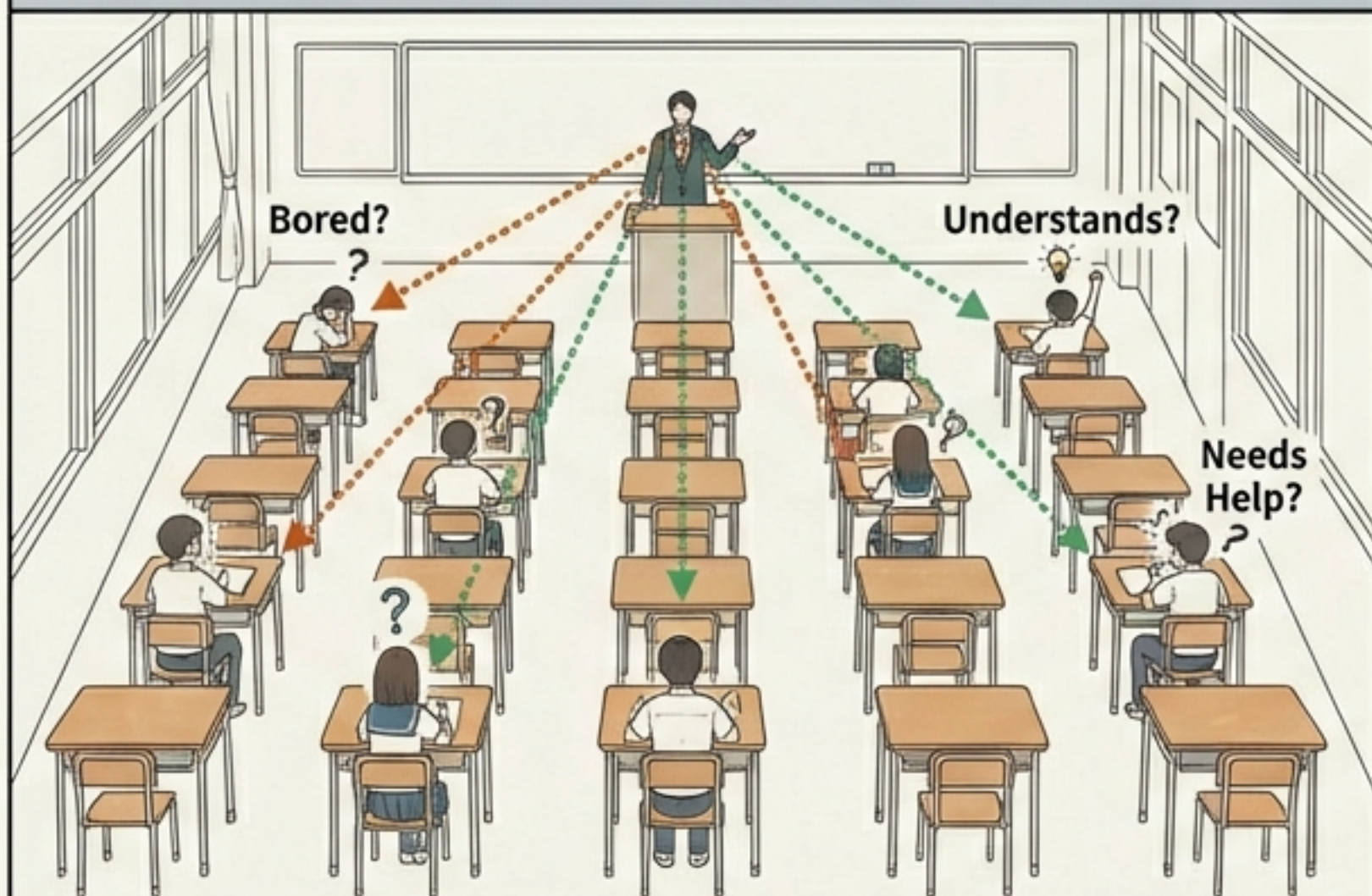


簡潔さと分かりやすさのバランス。
言葉と視覚資料を組み合わせる。



教師のスキル：目配りと机間指導

目配り (Observation)



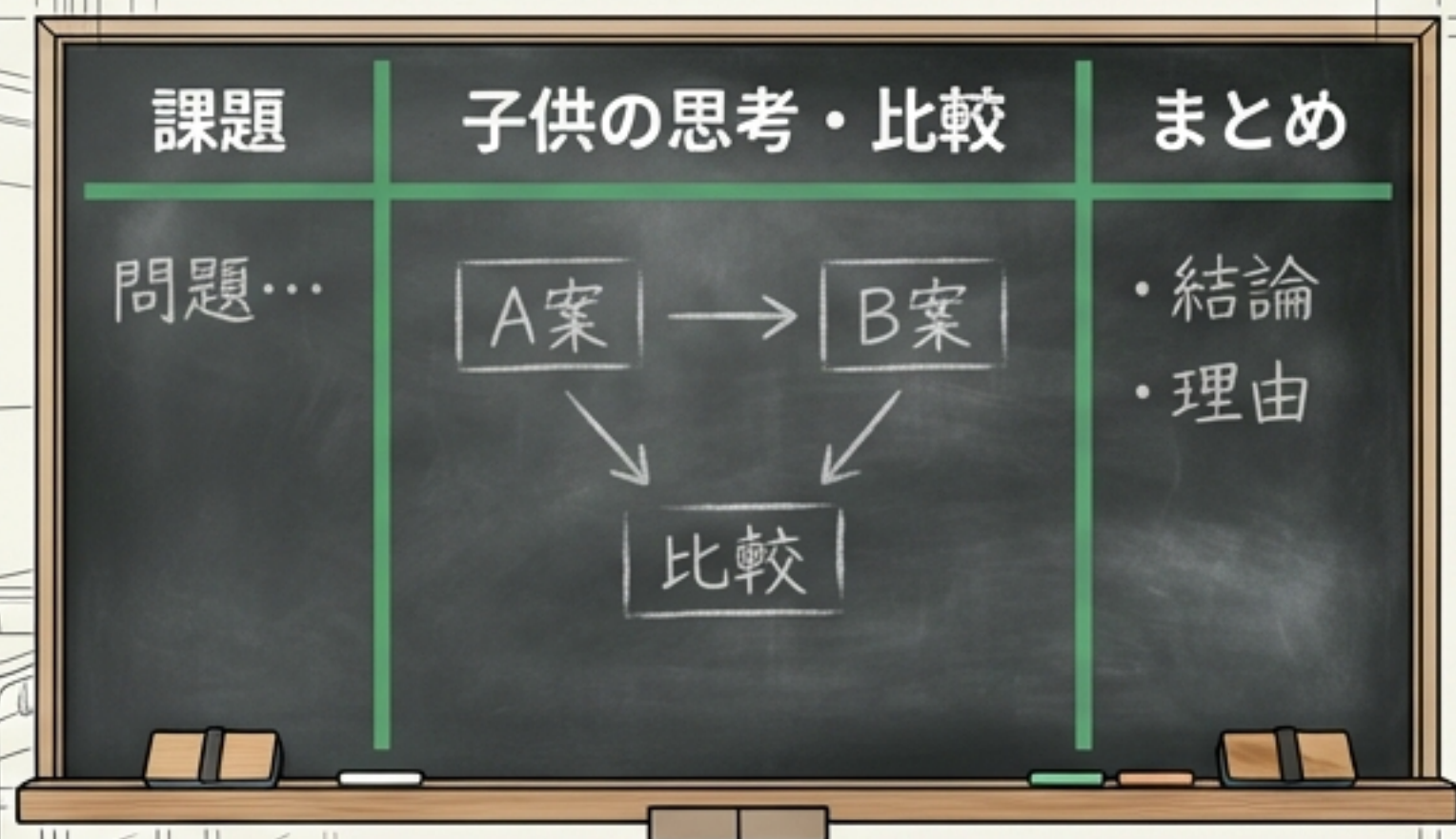
「誰を見るか」を意図する。
全体を漫然と見るのではなく、
個の反応から全体をを把握する。

机間指導 (Desk Instruction)



教師のスキル：板書とフィードバック

板書計画



結果だけでなく、思考のプロセスを可視化する構造的な記録。

フィードバック



「ほめ上手」は「具体性」から。結果ではなく、具体的なプロセスを価値づける。

子供のスキル：聞くから「聴く」へ

学習の土台をつくる

聞く → 聴く



ピラミッドの目

全員の目が揃うまで話し始め
(Waiting for eye contact)



しかの耳

1km先も聞こえる耳で、
小さなつぶやきを逃さない

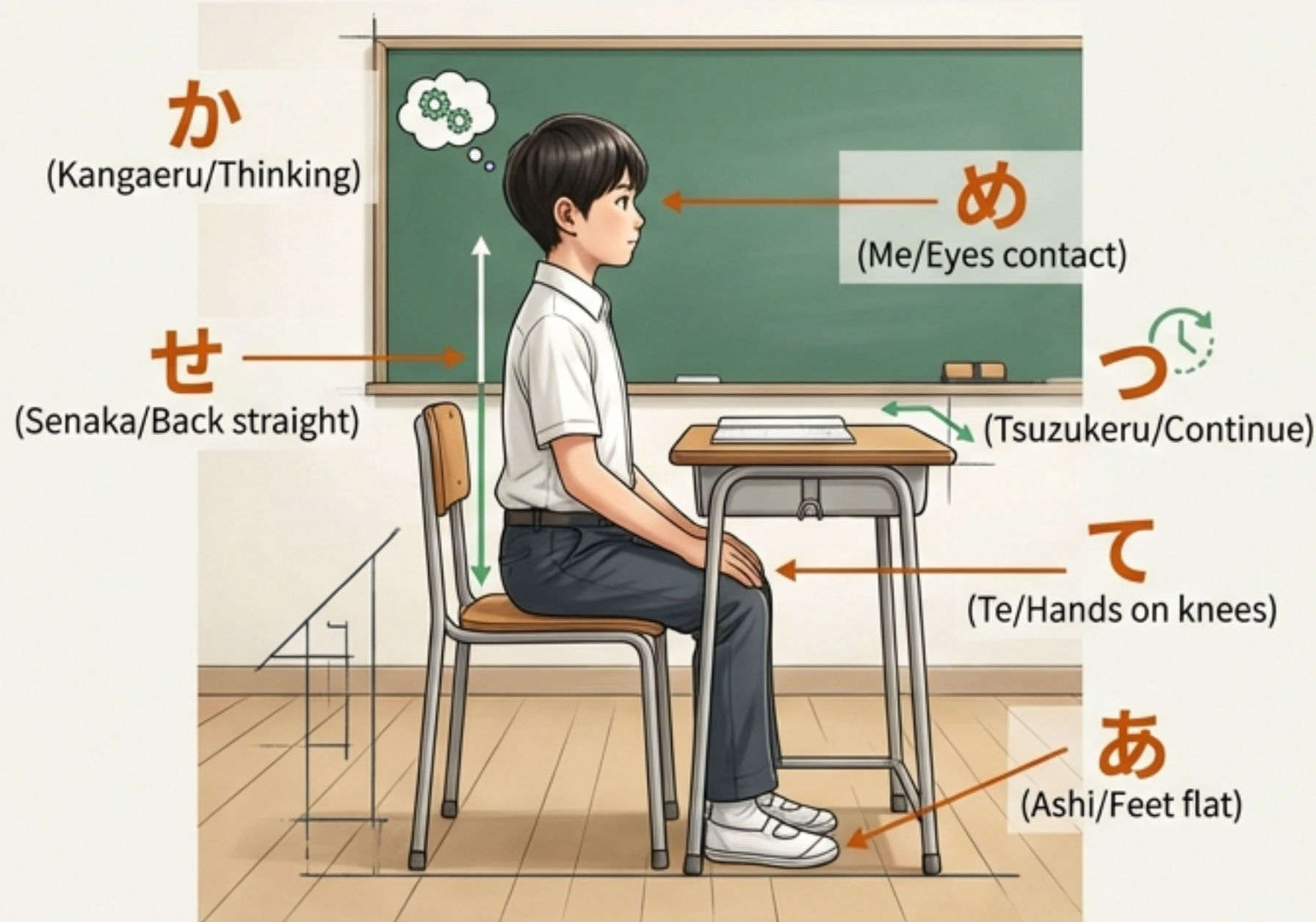


心の構え

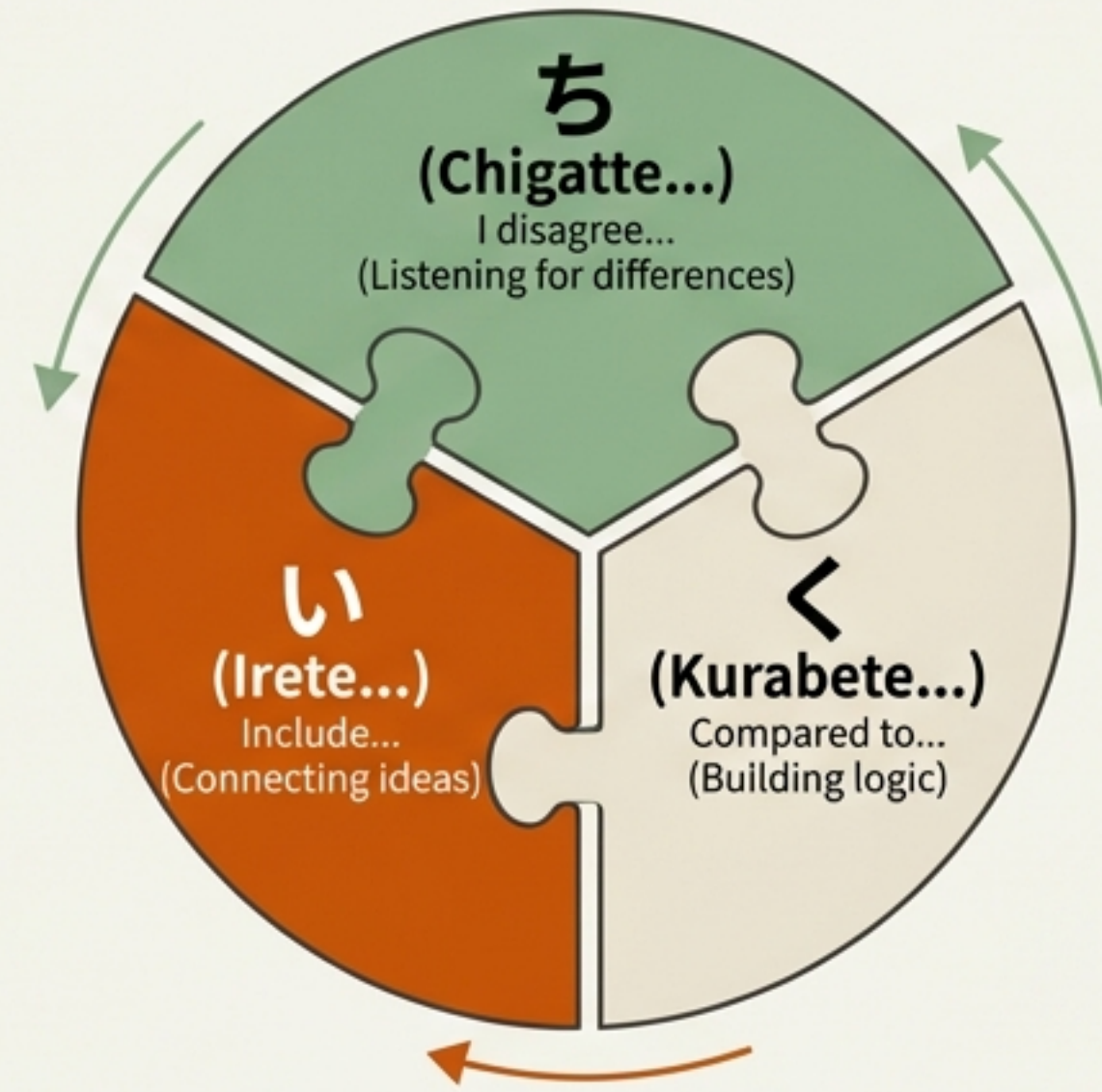
言われて聞くのではなく、自ら
聞こうとする姿勢を価値づける

子供のスキル：話す・話し合う

姿勢の合い言葉：せめあてかつ



対話のチームワーク (Discussion Protocol)



Goal: 手を挙げる段階から、論理的に比較・主張する段階へのステップアップ。

学習環境：環境は人をつくる



ワークショップ：理論を実践へ

ガニエの9教授事象
(Theory/Plan)

【ワークショップ課題】

具体的な教科・単元（例：算数・小4）を選び、ガニエの9事象をどう当てはめるかな話し合しましょう。

特に「1. 注意喚起（導入）」と
「9. 保持と転移（終末）」をどう工夫しますか？

子供のスキル・環境
(Foundation)

教師のスキル
(Execution)

(Foundation)

結論：子供の心に火をつける

- 「魅力ある授業」とは、エンターテインメントではありません。
- それは、教材と**子供の心**をつなぐ架け橋をデザインすることです。
- **科学的な理論**（ガニエ）と、**人間的な触れ合い**（スキル）を**統合**し、「教える場」から「共に発見する場」へ。



理論と実践の統合が、 子供の未来を拓く。